

行政視察報告書

委員会名（会派名）	大河の会、公明党（合同）	報告者	丸山吉朗
視察日程	令和4年6月27日～6月30日		
調査事項 及び 視察地	① 今後の経済活動活性化策について、米穀対策の今後 ② はこだて療育・自立支援センター ③ 登別子育て支援住宅について		
参加議員（委員）	齋藤信行、丸山吉朗、塙 豊、大原伊一、渡邊雄三		
①	【調査目的・内容】 今後の燕市の施策に活かすため、国土交通省観光庁職員や農林水産省職員から今後の経済対策、米穀対策について説明を受けました。		
	【所感】 観光需要を喚起し、経済の再興を図ることを目的に行われたGoToキャンペーン事業について、官公庁職員等からその取り組みの内容や今後の展開について説明を受けました。 また、農林水産省からは、米の消費が減ったことにより米余りとなるなか、輸出や米粉の利用拡大等の取り組みや有機質の肥料を使った米作りの取り組みについて説明を受けました。農家の力となるべく、燕市でもこれらの事業が浸透するよう取り組んでいく必要があると感じました。		
②	【調査目的・内容】 市立の障害児者施設であった3園を統合整備し、平成24年4月から共用開始した「はこだて療育・自立支援センター」について視察しました。発達障がい専門医の配置により療育体制を強化するなど統合によるメリットを生かし、障がい児・者の福祉を推進する中核的な機能を有する施設として運営されており、その実態について調査しました。		
	【所感】 施設内には発達障がいの専門の医師が常駐しており、利用者は相談しやすく安心して利用できる施設となっています。 障がいや発達に遅れのある子どもに対して訓練や治療を行う事業所、知的障がいや肢体に障がいのある方に対して訓練や介護を行う事業所、様々な事業が一つのセンター内で運営されており、保護者や利用者の交流にもつながると認識しました。 燕市でも、保護者や利用者の不安に寄り添い、利便性を考えた取り組みを行っていく必要があると感じました。		
③	【調査目的・内容】 子育て支援世帯の応援や団地内コミュニティの活性化のため、「千代の台団地」に子育て世帯を入居の対象とした住宅を建設しており、その実態について調査しました。		
	【所感】 同居する最年少の子どもが小学校を卒業する年度の3月31日までが入居期限となります。 子育て支援住宅は3棟12戸としており、平屋のため上下階に音が響く心配が無く、ベビーカーが利用しやすいようスロープを設置するなど、様々な点で配慮がなされていました。 燕市において、同様の取り組みを現段階で行うことは難しいものの、子育て世帯にとって何が必要とされているのか、また、今後市営住宅の建設を計画する際にこういった視点が必要なのか参考になりました。		

【視察の様子】

② 函館市



③ 登別市

1. 子育て支援住宅建設の経緯
 (1) 登別市営住宅の現状 (管理状況)

- ・管理戸数 13団地1,350戸
 (R4.5.31現在)
- ・約68%が昭和50年台までに建設した住宅
- ・老朽化等により空き家が増加 (入居率70.3%)
- ・団地の統廃合により令和11年度までに約200戸を用途廃止予定

番号	団地名	建設年数	築年数	管理戸数(戸)
1	千代の台団地	801-802	1~2年	28
2	新住団地	805-807	40~42年	58
3	桜木団地	809-814	18~22年	133
4	旭東団地	808-840	27~28年	281
5	旭平団地	802-803	45~46年	204
6	千歳団地	801-842	25~26年	22
7	錦ヶ丘団地	811-885	29~33年	98
8	豊栄団地	848-851	45~48年	26
9	登別東団地	847-818	15~50年	404
10	登別西団地	804+805	5~10年	58
11	旭東団地	840	60年	28
12	登別温泉団地	801+80	46年+20年	52
13	美穂団地	807	40年	40
	合計			1,350

